



令和5年7月24日

グリーンセンター

## 開園56年目にして 「アオノリュウゼツラン」が生涯一度の開花

「アオノリュウゼツラン」はセンチュリープラントとも言われ、数十年の成長過程において一度しか開花せず、開花ののちは枯れてしまいます。

当園では昭和42年の開園以来、56年目にして初めて屋外で開花しました。現在、満開の花をご覧ください。

### 記

- 日時 グリーンセンター開園時間  
9:00～17:00（最終入園16:00）
- 場所 川口市立グリーンセンター内 ロックガーデン
- 内容 別紙をご確認ください。



（7月24日撮影）

(別紙)

## 川口市立グリーンセンターでアオノリュウゼツランが開花

グリーンセンター内のロックガーデンにて、数十年に一度しか咲かないと言われる「リュウゼツラン（竜舌蘭）」が開花しました。

リュウゼツランは、センチュリープラントといい、文献では100年に一度しか開花しないとも言われていますが、日本では地方により20年から60年に一度開花するようです。

グリーンセンターでは、屋外のロックガーデンと大温室内で栽培されていましたが、屋外で開花するとなると、昭和42年のグリーンセンター開園以来56年で初めての開花となります。

このリュウゼツランは、いつ頃から栽培され始めたか明確には分かっていませんが、開園当初を知る元職員に伺ったところ、開園当初から植栽されていたようです。

今年5月8日に花芽を確認してから高さ約5.3mの高さまで成長を続け、72日目ついに生涯一度の花を咲かせ、本日満開となりました。

「50年以上蓄えてきた栄養をこの開花に全てを注いだのち、枯れてしまう」という儂さを持ったアオノリュウゼツランをこの機会に是非ご覧頂きたいと思います。

屋外での開花はグリーンセンターでは初めてのためデータがありませんが、綺麗な花が見られるのは、1週間程度ではないかと思われます。

### ●リュウゼツラン（アオノリュウゼツラン） キジカクシ目 リュウゼツラン科

原産地：アメリカ南西部・メキシコの乾燥地帯 中南米原産

説明：メキシコなどの砂漠に自生する大型の多肉植物。

普段は肉厚で鋭いとげのある青緑色の大きな葉をロゼット状に広げ、(草幅2～3mくらい)数十年に一度、高さ10m近くまで花茎を伸ばし、多数の黄色い花を咲かせます。なお、一回結実性植物※のため、開花・結実後は自然に枯れてしまいます。また、メキシコでは、樹液を発酵させて「プルケ」と呼ばれる伝統のお酒を造っています。

#### ※珍しい特徴：一回結実性植物

一生涯で一度だけ開花・結実し、結実後は自然に枯れてしまう植物。

数十年かけて成長・準備し、溜まった栄養分すべてを使って花を咲かせます。そして、実がなったのち、力を使い果たし枯れてしまう植物をいいます。